



笑顔いっぱい 夢いっぱい

郡山市立安積第三小学校
学校だより No.9
令和8年 5月 8日
文責:校長 酒井 健

【校長のひとりごと】

昨年度の学校だよりのNo.8「校長のひとりごと」に記載した内容です。これまで、何度となく、様々な場面で、この内容について「我々、大人が大切にしていきたい」ということを話してきましたので、あらためて、もう一度、記載してみました。連休明けの、この機会に、皆さんで考えていくことができればと思います。



子ども一人一人、様々な想いや願い、時には悩みをもって生活しています。ストレスを抱えていることもあります。その悩みや想いを汲み取って、我々大人は言葉かけをしていきたいものですね。

今回は、子どもをどのようにとらえていくか・・・ということについて、少しお話をさせていただきます。

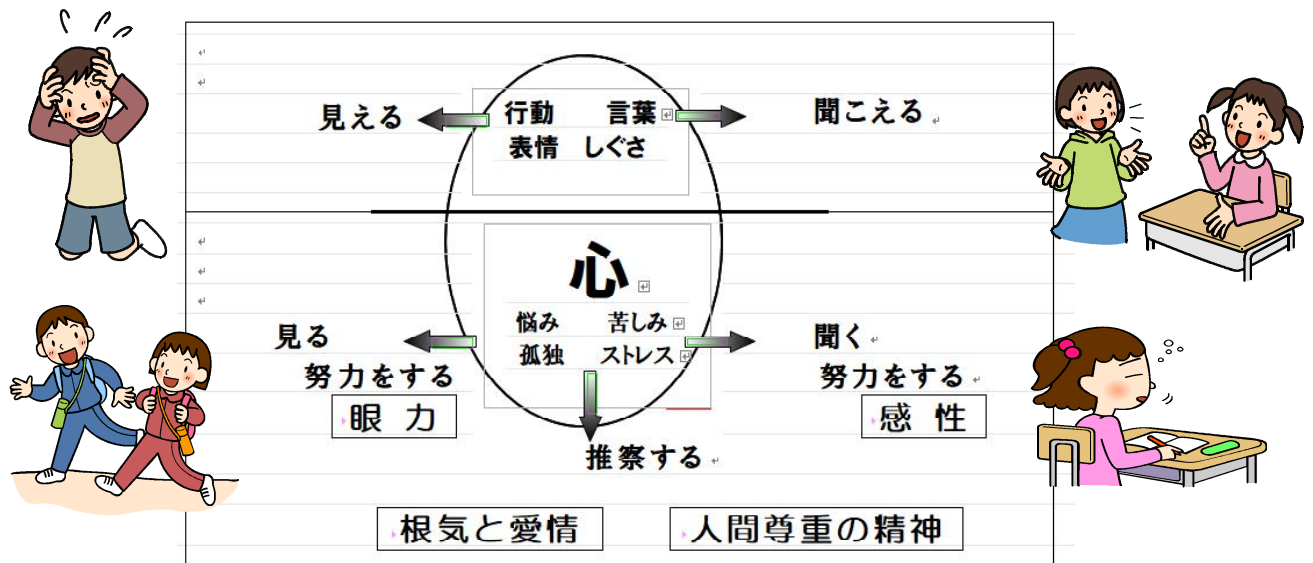


「子どもの本音が見える大人」になりたいものです。

ご家庭においても、お子様をご指導すること・・・ありますよね。私も息子を叱る、または怒ることがありました。手をあげたことは・・・どうだったかな？それは、きっとなかったと記憶しています。だいたい、叱る時は、目に見える、耳で聞こえることに対して叱っていました。でも、今、考えると、それはどうだったのだろうと感じます。

下の図のように、目で見える、耳で聞こえるのは、「行動、言葉、表情、しぐさ」等です。でも、それらの下に、目では見えない、耳では聞こえない「悩み、苦しみ、孤独、ストレス」・・・つまり「心」が動いています。その「心」の部分が要因となって、行動や言葉などに表れていることが多くあります。

私たち大人は、この、子どもたちの「心」を感じ取りたいものです。子どもたちの「心」を見る努力、聞く努力が必要です。子どもの心の声にそっと耳を傾ける・・・子どもの心の叫びを感じ取る・・・「心に寄り添う」・・・そこが大きなポイントなんだなと思っています。



保護者の皆様も、私たち教職員も、子どもたちの心に寄り添って、子どもたちの心を見る眼力と、心を知る感性を大切にしていきたいものですね。それには、「根気と愛情」「人間尊重の精神」が不可欠なのかな・・・と思います。なぜ、この子は、このような表情をしたのか、なぜこの子は、反抗的な態度をとっているのか、なぜ、この子はすぐに友だちに厳しい言葉を発するのか・・・それらには、きっと、何かしらの理由があるのだと思います。子どもたちの心をそっとのぞいて、その理由を考えてみましょう。